

# 近世以降の『鎌倉絵図』にみる観光資源の価値継承に関する研究

A Research on Conserve Value from Tourist Resources in "Kamakura Ezu" Late Modern Era

押田 佳子\*

OSHIDA Keiko\*

本研究では近世・近代に刊行された『鎌倉絵図』に着目し、観光資源の掲載変容をもとに、価値継承の実態を把握することを目的とした。その結果、「寺社」や「切通し」は近世以降、一貫して掲載数が多く、高い観光価値を継承していることを捉えた。一方で、「寺社付属」など多くの資源は、掲載が近世に集中していた。これは、近世の時点で観光価値が高かった資源についても、近代に神仏分離令による直接的な破壊や地形図表記上の問題などにより、その価値を低くするに至ったことが明らかとなった。中世の時点で消失していた「屋敷跡」は、「鎌倉幕府」にまつわるストーリー性の効果により、存在せずとも観光価値が高い資源であったことを捉えた。

キーワード：鎌倉絵図 (Kamakura-Ezu)、観光資源 (tourist resources)、観光価値 (tourist value)

## 1. はじめに

鎌倉はわが国を代表する歴史観光都市であり、年間約 2,000 万人の観光客数を誇る「古都」の1つである<sup>1)</sup>。街の中心ともいえる鶴岡八幡宮をはじめ、由緒ある寺社仏閣等様々な観光資源には、連日多くの人が訪れている。

しかしながら 2013 (平成 25) 年 5 月、20 年来進めてきた世界文化遺産登録を進めてきた取り組みが、ユネスコの諮問機関であるイコモスより「不登録」の勧告を受けたことにより、今後の観光のあり方が問われている<sup>2)</sup>。

この鎌倉における観光の歴史は古く、江戸時代(以降、近世)まで遡る。1685 (貞享六) 年に徳川光圀が編纂した歴史書「新編鎌倉志」が、鎌倉のガイドブックさながら一般大衆に広がったのを契機に、以降、多くの旅行者を鎌倉へ誘うこととなった<sup>3)</sup>。「新編鎌倉志」は歴史書でありながら、掲載された歴史観光資源の配置を示す「絵図」を添付しており、これが旅行者にとって貴重な資料となったことは想像に難くない。

このような時勢の中で誕生した『鎌倉絵図』は、16 世紀頃以降、近代まで刊行された当時の観光マップであり、今日までに 50 版以上が確認されている<sup>4)</sup>。『鎌倉絵図』に記された観光資源は、各時期における観光価値が高いものである一方で、300 年余り

の時間経過の中で、神仏分離令や関東大震災などの外的要因により消失・変化してしまったものも少なくない。このことから、『鎌倉絵図』に記載された観光資源の時代的変容を読み解くことより、近世以降の観光資源の観光価値の変容を捉えることが出来ることに加え、今後の観光に向けた資源活用の可能性を示唆できると考えられる。

以上を踏まえ、本研究では『鎌倉絵図』に着目し、これらに記載された観光資源の描写の変容をもとに、価値継承の実態を把握することを目的とする。

## 2. 先行研究

絵図資料に基づく都市研究には、名所図会に描写された京都の名所空間や水辺空間の構造を分析したもの<sup>5)</sup>や、切絵図や古地図を用いて都市の寺社空間の変容を把握したもの<sup>6)</sup>、『摂津名所図会』と『和泉名所図会』に描かれた神社と現在の神社の緑の存在形態とその変化を把握したもの<sup>7)</sup>、などが挙げられ、都市計画や景観、造園の分野をはじめ、多様なアプローチから取り組まれている。このことより、絵図は、当時の世相を捉えるために十分な情報を持ち、有用性が高い文献資料であるといえる。

近世・近代の鎌倉観光に着目すると、徳川光圀一行によって、後の鎌倉の観光資源となる歴史資源、

\*日本大学理工学部まちづくり工学科

景観資源が発掘されたプロセスを明らかにした研究<sup>8)</sup>や複数の紀行文より鎌倉観光を網羅的に捉えた研究<sup>9)</sup>、近世鎌倉観光最盛期に著名な戯作家・十返舎一九によって記された『金草鞋（かねのわらじ）箱根山七温泉江ノ島鎌倉廻』に着目し、観光経路上で一九が用いた景観鑑賞の技法などを検証した研究<sup>10)</sup>、近世鎌倉の風景描写と旅行者認識より捉えた切通しの観光的意義を捉えた研究<sup>11)</sup>、近代鎌倉における観光形態を捉えた研究<sup>12)</sup>、などがある。

しかしながら、これらはいずれも当時の旅行者がたどった観光経路をもとに、観光形態の変容などについては言及されているが、観光地側の視点から、時代の経過とともに変化するであろう観光資源の観光価値とその継承状況については言及されていない。

『鎌倉絵図』に着目した研究としては、「縦図」に着目し観光資源の描写変容を捉えたもの<sup>13)</sup>、近世のまちなみ描写を捉えたもの<sup>14)</sup>、がみられるが、時代及び着眼点が限定されており、鎌倉の観光資源の変容を網羅していない。

以上を踏まえ、本研究は観光資源の価値継承の実態を把握することで、サステイナブルな歴史観光地のあり方を考察するものである。

### 3. 研究方法

#### (1) 調査対象『鎌倉絵図』

表-1に対象とした鎌倉絵図の一覧を、図-1、2に鎌倉絵図の一例を示す。

鎌倉絵図は、16世紀初頭に台頭し、その後近代まで発行された観光マップであり、上述の通りこれまでに50版以上が確認されている。これらは大別すると、鶴岡八幡宮を中心に縦長の構図をとる「縦図（図



図-1 鎌倉絵図・縦図の一例（表-1 第七図）

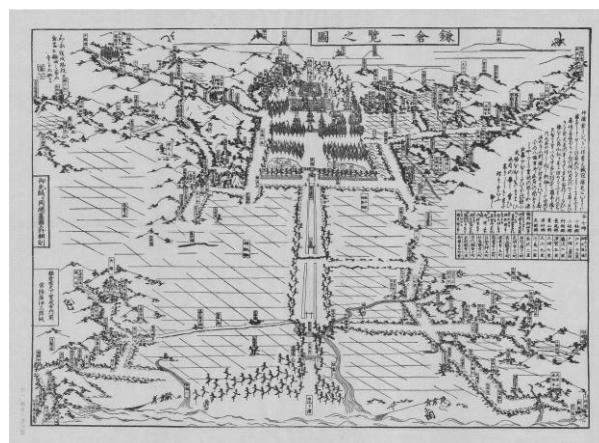


図-2 鎌倉絵図横図の一例（表-1 第八図）

表-1 調査対象とした『鎌倉絵図』一覧

図番号	絵図名称	型	刊行年(西暦)	版元および発行元	掲載数(件)
第一図	鎌倉絵図(第八図)	縦	享保頃(1716-1735年頃)	不明	133
第二図	鎌倉絵図(第七図)	縦	宝永末~正徳頃(1710-1715頃)	新板元斎藤七郎左衛門	118
第三図	鎌倉絵図(第十一図)	縦	延享・寛延頃(1744-1751年)	大坂屋孫兵衛	190
第四図	鎌倉名称圖	横	明和・安永頃(1764-1780年頃)	江戸日本橋通一丁目須原茂兵衛	480
第五図	鎌倉名跡誌	縦	天明五年(1785年)	中川屋文右衛門	168
第六図	鎌倉勝概圖	横	寛政・享和頃(1789-1804年頃)	石渡弥惣右衛門	209
第七図	鎌倉絵図(第二十七図)	縦	文化・文政頃(1804-1830年頃)	丸屋富蔵	198
第八図	鎌倉一覽之圖	横	嘉永三年(1850年)	常陸屋伊三郎	152
第九図	鎌倉總圖江之嶋金澤遠景	横	安政頃(1854-1860年頃)	戸川	261
第十図	相州鎌倉絵圖	横	明治初期(1875年頃)	大坂屋孫八	175
第十一図	鎌倉江嶋一覽	横	明治20年(1887年)	相良國太郎	73
第十二図	相模国鎌倉名所及江之嶋全圖	横	明治29年(1896年)	東京浅草青山豊太郎	304
第十三図	鎌倉	横	昭和2年(1927年)	鎌倉同人会	606

古  
↑  
新

ー1)」と、横長の構図をとる「横図（図ー2）」に2分され、縦図の多くは鎌倉周辺で多く印刷されており、鶴岡八幡宮の許可を得ていることを示す「御免」が欄外に見られるという特徴をもつ。一方、横図は鎌倉から遠く離れた江戸や京都などでも印刷されている<sup>4)</sup>。これらの絵図は西洋の地図製作技術が導入された明治（以下、近代）初期まで作成された。

本研究では、鎌倉絵図を網羅的にまとめた「復元鎌倉古絵図略解」<sup>4)</sup>に掲載された鎌倉絵図全12図に、観光資源掲載に係わる絵図と地形図との明確な違いを示すため、近代以降西洋より導入された測量技術を用い、鎌倉同人会より発行された地形図「鎌倉」を合わせた全13図を対象とする。

## (2) 分析方法

本研究では、鎌倉絵図に記載された「文字情報」を抽出した。抽出した文字情報は、絵図の描写に対応する「絵図要素」と、絵図の閲覧者に宛てた「案内文」とに分類し、さらに絵図要素は、以下の通り細分類した。

### 【絵図要素】

観光資源：寺社（寺院・神社）、寺社付属（寺院要素、神社要素、その他）、塚・墓・石塔、屋敷跡、名所・旧跡

自然：谷、山、植物、川・滝（支流含）、井戸・名水・池、石・岩

地形・地名

交通：道、切通し、橋

近代要素：交通、公共、医療、宿泊等、その他

## 4. 鎌倉絵図における観光資源の掲載状況

表ー2に鎌倉絵図の文字情報を分類ごとにまとめたものを、表ー3に絵図ごとにまとめたものを示す。

表ー2より、全13図に掲載された文字情報は1010件であり、うち、案内文を除く絵図要素は991件であった。

分類ごとの掲載件数に着目すると、「観光資源」は503件と絵図要素の半分以上を占めており、このうち「寺社」が152件、社殿や塔頭などの「寺社付属」が175件と、寺社に関連する項目が7割弱を占めていた。「自然」は213件みられ、鎌倉の立地由来に大きく関わる「山」が61件と最多であり、次いで鎌倉に特徴的な地形要素である「谷（やつ）」が59件で

あった。

この他に、「地形・地名」が116件、「交通」では「道」が最多の43件であった。

本稿で対象とした鎌倉絵図のうち、第十図以降の4版は近代刊行であるが、これらに特徴的な近代要素は65件みられ、このうち「学校や市役所」などの「公共」が最多の21件であった。

なお、「案内文」は全19件であった。

表ー2より、絵図ごとの傾向を見ると、最も多くの文字情報が掲載されていたのは、近代に刊行された地形図である第十三図の606件であり、絵図では第四図の480件が最多、次いで第十二図の304件、第九図の261件、といずれも横図であった。

このことから、近世に掲載された文字情報が近現代の地形図に比べ少ないこと、絵図の型では遠方からの旅行者の利用を考慮した横図における掲載数が多いことが分かる。

掲載内容の分類ごとにもみると、「観光資源」については、第十二図、第十三図を除く十一図において「寺社」と「寺社付属」を合わせた寺社要素が各図の全掲載数の40%以上を占めていた。次いで、寺社と関連が強い要素の1つである「塚・墓・石塔」が72件、頼朝をはじめ中世の有力武将などの「屋敷跡」が55件であった。

自然では、「山」が61件と最多であり、次いで「谷」が59件であった。「地形・地名」は116件であった。

また、「近代要素」の大半は第十二図、第十三図でみられた。

表ー3より、網羅的に絵図要素を捉えた第四図を除く近世観光の絵図（第九図以前）において、寺社をはじめとする観光資源に重きが置かれていることが分かる。

また、絵図の型に関わらず、第一図、第三図、第四図、第六図、第七図、第九図では、「寺社」に対し「寺社付属」の割合が高く、特に第四図では寺社数を上回る件数が描写されている。これは、各寺社の塔頭や境内建造物にも観光価値があったことを表しているといえる。

## 5. 掲載情報ごとに捉えた観光価値の継承状況

表ー4ー1～22に、絵図への掲載状況を文字情報の分類ごとにまとめたものを示す。

表-2 分類ごとに捉えた文字情報の掲載状況

分類		掲載数	現存	消失(近世の 時点で消失)	変更・ 移設等	不明	現存率 (現存/掲載)
観光資源	寺社	152	96	50	4	2	63.2%
	寺院	112	63	46	3	0	56.3%
	神社	40	33	4	1	2	82.5%
	寺社付属	175	85	71	13	6	48.6%
	寺院要素	146	72	63	6	5	49.3%
	神社要素	27	13	6	7	1	48.1%
	その他	2	0	2	0	0	0.0%
	塚・墓・石塔	72	62	4	6	0	86.1%
	地蔵	12	10	0	2	0	83.3%
	やぐら・窟等	24	20	1	0	3	83.3%
屋敷跡	55	0	55	0	0	0.0%	
名所・旧跡	13	3	10	0	0	23.1%	
小計		503	276	191	25	11	54.9%
自然	谷	59	50	4	2	3	84.7%
	山	61	55	2	1	3	90.2%
	植物	28	4	24	0	0	14.3%
	川・滝(支流含)	17	14	2	1	0	82.4%
	井戸・名水・池	33	23	5	2	3	69.7%
	石・岩	15	6	3	2	4	40.0%
小計		213	152	40	8	13	71.4%
地形・地名		116	55	45	14	2	47.4%
交通	道	43	36	0	6	1	83.7%
	切通し	17	8	3	2	4	47.1%
	橋	34	27	4	1	2	79.4%
小計		210	126	52	23	9	60.0%
近代要素	交通	8	8	0	0	0	100.0%
	公共	21	10	7	4	0	47.6%
	医療	3	1	0	2	0	33.3%
	宿泊等	17	4	12	0	1	23.5%
	その他	16	5	9	2	0	31.3%
小計		65	28	28	8	1	43.1%
絵図要素小計		991	582	311	64	34	58.7%
案内文		19	—	—	—	—	—
合計		1010	582	311	64	34	—

※表中の数字の単位は件 ※※ —は該当なしを示す

表-3 絵図ごとに捉えた文字情報の掲載状況

図番号	掲載数 (件)	絵図要素																				案内文		
		観光資源						自然						交通			近代要素							
		寺社	寺社 付属	塚・墓・ 石塔	地蔵	やぐら・ 窟等	屋敷跡	名所・ 旧跡	谷	山	植物	川・滝 (支流含)	井戸・ 名水・ 池	石・ 岩	地形・ 地名	道	切 通し	橋	交通	公共	医療		宿 泊 等	その 他
第一図	133	47	30	4	1	4	15	1	4	4	1	2	4	0	9	2	3	1	0	0	0	0	0	1
第二図	118	45	15	4	1	4	15	1	5	4	1	2	4	0	11	1	3	1	0	0	0	0	0	1
第三図	190	54	30	8	1	5	10	3	8	7	4	7	11	3	17	7	6	7	0	0	0	0	0	2
第四図	480	89	129	23	5	17	27	5	34	19	14	9	22	9	30	16	15	15	0	0	0	0	0	2
第五図	168	61	19	5	0	5	12	1	9	4	1	5	15	0	12	1	7	10	0	0	0	0	0	1
第六図	209	59	37	13	1	7	15	3	13	9	2	7	13	4	11	1	6	6	0	0	0	1	0	1
第七図	198	58	33	10	1	4	10	3	9	8	4	7	11	3	15	7	6	7	0	0	0	0	0	2
第八図	152	56	8	11	2	4	9	3	3	4	7	3	7	1	20	6	3	2	0	0	0	2	0	1
第九図	261	79	42	15	5	6	13	4	9	9	6	7	10	5	19	12	7	12	0	0	0	0	0	1
第十図	175	56	14	10	1	4	15	3	7	7	3	6	11	2	14	11	5	4	0	0	0	0	0	2
第十一図	73	34	3	6	0	0	7	1	0	5	1	2	2	0	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0
第十二図	304	67	19	33	3	7	28	6	15	13	3	4	18	6	26	13	5	8	4	7	0	15	4	0
第十三図	606	120	58	56	9	15	26	8	47	46	3	10	19	3	81	17	9	28	5	18	3	1	13	11
掲載総数		152	175	72	12	24	55	13	59	61	28	17	33	15	116	43	17	34	8	21	3	17	16	19

※表中の数字の単位は件





倉大仏（同・高德院）」が11図、「丸山稻荷社（同・鶴岡八幡宮）」が10図、「小別当（同・鶴岡八幡宮）」「大鐘（同・円覚寺）」「一覽亭跡（同・瑞泉寺）」が各9図、となっており、以上に挙げた7件のみが、近世から近代にかけてほぼ均等に掲載される傾向を捉えた。これ以外については、近世には掲載がみられるものの近代にはほとんど掲載されていなかった。

このことより、近世には観光資源の1つとして認識された寺社付属が、神仏分離令により廃され物理的に消失したことや、地理情報としては寺社本体の名称の掲載で事足りることから地形図上に掲載されなくなったと考えられる。

以上より、近代以降における寺社付属の観光価値は大きく損なわれたといえる。

表-2より寺社付属の現存状況に着目すると、175件中85件に留まっていた。この要因として、上述した神仏分離令の影響や関東大震災など近代の影響に加え、中世以降徐々に鎌倉仏教が衰退した結果によるものも多い。

以上より、寺社は鎌倉絵図全体を通じて数多く掲載されており、現存しているものを中心に近世以降の長きに亘り観光価値を継承しやすい傾向にあることを捉えた。一方、寺社付属の掲載は近世に留まっており、これは、近代の観光交通の発達に伴い、観光にかける手段や時間が大きく変化したことで、観光資源が「寺社単位」になったため、その観光価値が低下したとみられる。

## (2) 塚・墓・石塔

表-4-3より、掲載された「塚・墓・石塔」全72件のうち、「人丸姫の塚」と「島山重保墓」がそれぞれ最多の12図に掲載され、次いで「冷泉為相の宝篋印塔」の11図、となっていた。

刊行時期と掲載状況との関係を見ると、時代を下るにつれ、数多く掲載される傾向がみられ、多くは近代に発行の第十二図、第十三図にみられた。

表-2より塚・墓・石塔の現存状況に着目すると、72件中62件（現存率86.1%）と高い現存率であり、これらはいずれも祀られているのが歴史的偉人であることに拠るといえる。

以上より、近世における塚・墓・石塔の観光価値はそれほど高くなかったものの、歴史的価値に伴う現存率の高さや、地図表記において「史跡」や「墓」

が明記されたこと、さらには鎌倉が歴史観光都市として発展したことなど、近代以降の都市整備を進めていく過程で観光価値が向上した比較的新たな観光資源といえる。

## (3) 地蔵

表-4-4より、掲載された「地蔵」全12件のうち、「綱引地蔵（浄光明寺）」は10図に掲載され、時点の「六地蔵」「矢柄地蔵（円覚寺）」の各4図に比べ圧倒的に多い掲載数であった。

表-2より地蔵の現存状況に着目すると、掲載数は少ないながらも12件中10件（現存率83.3%）と高い割合で現存していた。これは、「塚・墓・石塔」と同様、云われや伝承などを重んじて消失するものが少なかったためとみられる。その一方で、云われのある地蔵であっても、観光の中心はあくまでも所属する寺社となるため、地蔵単独で観光価値を持つに至らなかったと考えられる。

## (4) やぐら・窟等

表-4-5より、掲載された「やぐら・窟等」全24件のうち、「平景清の牢跡」「大塔宮土牢（鎌倉宮）」「日朗の土牢」が各11図と最多であり、次いで「北条高時腹切やぐら」「御馬冷場」が各10図となっているが、これら以外は4図以下に留まっていたことより、観光資源となり得る著名なものは一部に限定されていたことが窺える。

表-2よりやぐら・窟等の現存状況に着目すると、全23件中20件（現存率83.3%）と高い割合で現存していた。

以上より、やぐら・窟等は高い現存率でありながらも、全体を通じて掲載数が少なく、近世より観光価値が高いものは限定されていたことを捉えた。

## (5) 屋敷跡

表-4-6より、掲載された「屋敷跡」全55件のうち、「北条執権邸旧蹟」「大蔵幕府跡頼朝屋敷」がそれぞれ全13図に掲載され、次いで「山ノ内上杉管領屋敷跡」「梶原屋敷跡」が各12図であった。これらを含む過半の7図以上に掲載された11件については、近世、近代を通じて観光資源として認識されていたことが窺える。

表-2より現存状況に着目すると、屋敷跡は近世







の時点で既に存在しなかったにも関わらず、多くの絵図に掲載されている。これは、寺社など他の観光資源において「存在価値」が観光価値に影響しているのに対し、伝承や云われを伴う歴史性を有した「場所そのものの価値」が見出された結果と考えられる。

### (6) 名所・旧跡

名所・旧跡は、近世・近代において既に名所や過去の旧跡として記載されているものである。

表-4-7より、掲載された「名所・旧跡」全13件のうち、「和賀江島」が最多の10図に掲載され、次いで「三浦道寸の城址」の9図、であった。

表-2より現存状況に着目すると、全13件中現存するものは「窟屋」「岩屋入口」「龍池穴」の3件のみであり、これらはいずれも江の島の窟屋に係わるものであった。

このことより、上述の屋敷跡同様、歴史性を有した「場所そのもの」に観光価値が置かれたといえる。

### (7) 自然

表-4-8に絵図ごとの「谷」の掲載状況を、表-4-9に「山」、表-4-10に「植物」、表-4-11に「川・滝」、表-4-12に「井戸・名水・池」、表-4-13に「石・岩」、の掲載状況を示す。

表-4-8より「谷」の掲載状況についてみると、全59件のうち、「笹目ヶ谷」と「葛西ヶ谷」がそれぞれ11図と最多であり、次いで「扇ヶ谷」の9図であった。このことより、有名寺社がある、あるいはそこに至る経路上にある谷が掲載されやすい傾向を捉えた。

表-4-9より「山」についてみると、全61件のうち、「衣張山」と「屏風山」「源氏山」がそれぞれ全13図に掲載され、次いで鶴岡八幡宮の背後の「天台山」の9図となっていたが、全体の約半数を占める31件が第十三図のみに掲載されていた。このことより、「山」は地理情報として地形図には必要な要素であるものの、絵図には掲載されにくい要素であるといえる。

表-4-10より「植物」についてみると、全28件のうち、「日蓮袈裟掛け松」が最多の9図に記載され、次いで「六本杉」が7図であった。網羅的に観光資源を捉えた第四図を除くと、掲載数は各絵図において1~7件と少ないことより、云われがある植物であったとしても、近世・近代を通して、観光資源や有益な地理情報として認識されていなかったと考えられる。

表-4-11より、「川・滝」についてみると、全17件のうち「稲瀬川」が全13図、次いで「滑川」が11図に掲載されており、全時期を通じてこれら2河川および滑川の別名が重要視されていたことが分かる。他の河川は、近代以降に「地形要素」として扱われたために掲載されたとみられる。

一方で、近世に最大6件掲載された滑川の別名の掲載は減少しており、地域固有の名称が重要視されなくなったことが窺えた。

表-4-12より、「井戸・名水・池」についてみると、全33件のうち、「星の井」と「鉄の井」が最多の12図に掲載され、次いで「扇の井」が11図となっており、全体を通じて名水が湧く井戸とされる「鎌倉十井」や「鎌倉五名水」が記されやすい傾向

表-4-7. 名所・旧跡

名称	細分類	現存	特記事項	掲載絵図数 (図)	←古 新→													
					図番号													
					第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図	
和賀江島	旧跡	×		10			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
三浦道寸の城址	旧跡	×		9	1	1	1	1		1	1			1	1		1	
主馬盛久(平盛久)頭座	旧跡	×	石碑	7			1	1			1	1	1	1			1	
西御門	旧跡	×	地名として残る	4				1					1				1	1
飢渴島	旧跡	×		2						1							1	
東御門	旧跡	×		2				1					1					
問柱所跡	旧跡	×	石碑	2													1	1
岩屋	名所	○	江の島	1									1					
岩屋入口(第一岩屋)	名所	○	江の島	1													1	
龍池穴(第二岩屋)	名所	○	江の島	1													1	
宇都宮辻子幕府跡	旧跡	×	神社として残る	1														1
日蓮辻説法跡	旧跡	×		1														1
大蔵耕地	旧跡	×		1														1
掲載総数: 13件	現存: 3件			合計(件)	1	1	3	5	1	3	3	3	4	3	1	6	8	

※掛網数字は掲載がみられたものを指す

【現存の凡例】 ○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

を捉えた。これは、急峻な地形ゆえに水が少ない鎌倉において、貴重でかつ良質な水資源は絵図に掲載するに値する内容と認識されたことに拠ると考えられる。

表-4-13より、「石・岩」についてみると、全

表-4-8. 自然：谷

名称	細分類	現存	掲載絵図数	←古 絵図名称 新→													
				第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図	
				笹目ヶ谷	谷	○	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
葛西ヶ谷	谷	○	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
扇ヶ谷	谷	○	9	1	1			1	1	1	1	1	1	1		1	1
釈迦堂ヶ谷	谷	○	8			1	1	1		1		1	1			1	1
松葉ヶ谷	谷	○	8			1	1	1	1	1		1	1			1	1
比企ヶ谷	谷	○	7			1	1			1	1	1				1	1
大御堂ヶ谷	谷	○	7			1	1	1		1		1	1			1	1
犬懸ヶ谷	谷	△	7			1	1	1		1	1		1				1
花ヶ谷	谷	○	6			1	1		1	1			1				1
佐助ヶ谷	谷	○	5	1	1		1									1	1
月影ヶ谷	谷	○	5				1		1			1				1	1
桐ヶ谷	谷	○	4				1	1	1								1
弁ヶ谷	谷	○	4				1	1	1								1
梅ヶ谷	谷	○	3		1		1										1
宅間ヶ谷	谷	○	3				1									1	1
御坊ヶ谷	谷	○	3						1							1	1
胡桃ヶ谷	谷	×	3				1		1								1
番場ヶ谷	谷	○	2				1										1
鐘ヶ谷(たたらがや)	谷	○	2				1										1
藤ヶ谷	谷	○	2				1										1
法泉寺ヶ谷	谷	○	2				1										1
清涼寺ヶ谷	谷	○	2				1										1
山王堂ヶ谷	谷	○	2				1										1
御前ヶ谷	谷	○	2				1										1
智岸寺ヶ谷	谷	○	2				1										1
無量寺ヶ谷	谷	○	2				1										1
鶯ヶ谷	谷	○	2				1										1
山王ヶ谷	谷	○	2								1						1
長楽寺ヶ谷	谷	○	2												1		1
法住寺ヶ谷	谷	×	2				1										1
泉ヶ谷	谷	×	2					1									1
桑ヶ谷	谷	×	2						1							1	1
経師ヶ谷	谷	不明	2				1										1
蛇ヶ谷	谷	不明	2				1		1								1
薬師堂ヶ谷	谷	○	1				1										
七観音ヶ谷	谷	○	1				1										
柏ヶ谷	谷	○	1				1										
蛇ヶ谷	谷	○	1				1										
多宝寺ヶ谷	谷	○	1				1										
大御堂	谷	○	1						1								
亀ヶ谷	谷	○	1												1		
名越ヶ谷	谷	○	1												1		
勝縁寺ヶ谷	谷	○	1														1
大谷(長谷大谷戸)	谷	○	1														1
極楽寺馬場ヶ谷	谷	○	1														1
西ヶ谷	谷	○	1														1
杉ヶ谷	谷	○	1														1
紅葉ヶ谷	谷	○	1														1
西ヶ谷	谷	○	1														1
和泉ヶ谷	谷	○	1														1
宅間	谷	○	1														1
理智光寺ヶ谷	谷	○	1														1
御谷(八正寺ヶ谷)	谷	○	1														1
蛇ヶ谷	谷	○	1														1
馬場ヶ谷	谷	○	1														1
経ヶ谷	谷	○	1														1
名越大谷(西ヶ谷)	谷	○	1														1
小袋谷(こぶくろや)	谷	△	1				1										
花鳥ヶ谷	谷	不明	1						1								
掲載総数:59件	現存:50件		合計(件)	4	5	8	34	9	13	9	3	9	7	0	15	47	

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】 ○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

15件のうち「鶴亀石」が最多の6図であり、近世・近代を通じて描写が少ない傾向を捉えた。

以上より、「自然」の要素のうち、鎌倉の地形を特徴づける「谷(やつ)」、水の少ない鎌倉においては貴重な「井戸・名水・池」が多く掲載される傾向が

みられた。このことから、地域の生活に密着した自然要素は地域認識に留まらず観光客にも恩恵をもたらすことより、観光価値を有していたと考えられる。

表-2より「自然」の各要素の現存状況に着目すると、最も現存率が高いものは「山」であり、61件中55件（現存率90.2%）であった。

表-4-9. 自然：山

名称	細分類	現存	特記事項	掲載絵図数	←古 新→												
					絵図名称												
					第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図
衣張山		○		13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
屏風山		○		13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
源氏山		不明		13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
天台山		○		9	1	1	1	1	1		1		1	1			1
大臣山		○		7				1				1		1	1	1	1
鷲峯山		○		6			1	1		1	1						1
小富士山		○		5			1	1		1	1						1
飯森山		○		4				1		1			1				1
大平山		○		4									1	1	1	1	
天照山		○		3			1				1			1			
勝上献		○		3				1					1				1
三鉢峰		○		3						1	1		1				
御猿畠山		○		2				1		1							
八州見		○		2				1									1
貝吹山		○		2												1	1
大丸山		○		2												1	1
明月山		○		2												1	1
御神山		○		2												1	1
長楽寺山		○		2												1	1
六国見		○		1				1									
嵩山		○		1				1									
離山(はなれやま)		○		1				1									
粟船山		○		1				1									
飯盛山		○		1				1									
鐘摺山		○		1				1									
扇山		○		1						1							
観音山		○		1												1	
白旗山(源氏山)		○		1												1	
山王山		○		1													1
赤山		○		1													1
飛石山		○		1													1
七観音山		○		1													1
上野山		○		1													1
胡桃山		○		1													1
大澤山		○		1													1
鈴野山		○		1													1
石名畑山		○		1													1
権現山		○		1													1
丸山		○		1													1
岡松山		○		1													1
稲荷山		○		1													1
明石山		○		1													1
道乗山		○		1													1
俊踞峯		○		1													1
観音山		○		1													1
天狗堂山		○		1													1
笹目ヶ谷山		○		1													1
大仏山		○		1													1
観音山		○		1													1
兜山		○		1													1
陣鐘山		○		1													1
霊仙山		○		1													1
鶯谷山		○		1													1
大宝山(入定山)		○		1													1
浅間山		○		1													1
佐竹山		△		1													1
名越山		(通称)		1													1
普賢象山		○		1													1
石切山(源氏山の一部で石切り場)		×		1				1									
□□□(判読できず)		不明		1				1									
諏訪山		不明		1													1
掲載総数:61件	現存:55件			合計(件)	4	4	7	19	4	9	8	4	9	7	5	13	46

※掛網数字は掲載がみられたものを指す

【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

次いで「谷」は、全59件中50件(現存率84.7%)であり、現在においても地名や寺院の山号などに用いられていることより、谷単体では観光価値を有さないが、地形や寺院の山号として用いられており、鎌倉を構成する地形単位として極めて重要な要素であることが捉えられた。

「川・滝」は、17件中14件(現存率82.4%)であり、一部河道改修などが認められたものの、貴重な水源となる河川は基本的に残されたことが窺える。

「井戸・名水・池」は、33件中23件(現存率69.7%)と比較的高い現存率であり、消失したものの多くは枯渇によるものであった。なお、金龍水は、昭和37

表-4-10. 自然：植物

所屬 寺社	名称	細分類	現存	特記事項	掲載 絵 図 数 ( 図 )	←古 新→ 図番号													
						第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図	
	日蓮袈裟掛け松	マツ	×		9			1	1		1	1	1	1	1		1	1	
	六本杉	スギ	×		7			1	1		1	1	1	1	1				
	琴弾の松	マツ	×		4			1				1			1			1	
	盛久松	マツ	×		3	1	1			1									
	槍立て松	マツ	×		2			1				1							
	鏡立松	マツ	×		2								1			1			
鶴岡八幡宮	柳原	ヤナギ	×		2				1									1	
鶴岡八幡宮	ソテツ	ソテツ	○		1				1										
建長寺	舍利樹(ビャクシン)	ビャクシン	○		1				1										
森戸神社	飛来楨	マキ	○		1				1										
	室の木	ネズ	○		1							1							
建長寺	影向の松	マツ	×		1														
常楽寺	琵琶松	マツ	×		1				1										
	弁慶腰掛松	マツ	×		1				1										
	六本松	マツ	×		1				1										
	衣掛松	マツ	×		1				1										
正覚寺	数珠掛松	マツ	×		1				1										
鶴岡八幡宮	銀杏	イチョウ	×		1				1										
森戸神社	千貫松	マツ	×		1				1										
	小動の松	マツ	×		1							1							
	筆捨松	マツ	×		1							1							
	君ヶ濱松	マツ	×		1							1							
	照手姫松	マツ	×		1							1							
	紅掛松	マツ	×		1							1							
	諏訪の松	マツ	×		1							1							
鶴岡八幡宮	蛇柳	ヤナギ	×		1							1							
	上人手植え梅	ウメ	×		1												1		
	龍燈松	マツ	×	石碑あり	1												1		
掲載総数:28件					現存:4件	合計(件)	1	1	4	14	1	2	4	7	6	3	1	3	3

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

表-4-11. 自然：川・滝（支流含）

名称	細分類	現存	特記事項	掲載 絵 図 数 ( 図 )	←古 新→ 図番号														
					第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図		
稲瀬川	川	○		13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
滑川	川	○		11	1	1	1		1	1	1	1	1	1				1	1
滑川(閻魔川、閻魔川)	別名	○		8			1	1	1	1	1		1	1					1
座禅川(滑川)	別名	○		8			1	1	1	1	1		1	1					1
滑川(蛭子川)	別名	○		6			1	1		1	1		1	1					1
滑川(逆川)	別名	○		6			1	1			1		1	1					1
滑川(胡桃川)	別名	○		5			1	1	1	1	1								1
滑川(墨壳川)	別名	△		2			1			1									1
豆腐川	川	○		3									1					1	1
音無川	川	○		2														1	1
多古江川	川	○		1				1											
音無の滝	滝	○		1			1												
行合川	川	○		1													1		
山之内川	川	○		1															1
極楽寺川	川	○		1															1
内川	川	×		1								1							1
那智の滝	滝	×		1															1
掲載総数:17件					現存:14件	合計(件)	2	2	7	9	5	7	7	3	7	6	2	4	10

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

(1962)年に道路拡張工事に伴い埋められている。  
 続いて現存率の低い要素に着目すると、最も現存率が低い「植物」は28件中4件(現存率14.3%)であり、これは対象が生物であるため、各々の寿命な

どの影響を受けた結果とみられる。また、「石・岩」は、15件中6件(現存率40.0%)であり、表-4-13より、全時期を通じて主要な観光資源および自然要素として捉えられていなかったことがわかる。

表-4-12. 自然：井戸・名水・池

所属 寺社	名称	細分類	現存	特記事項	掲載 絵 図 数 ( 図 )	←古 新→													
						図番号													
						第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図	
	星の井(星月夜ノ井)	井戸	○	鎌倉十井	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	鉄の井	井戸	○	鎌倉十井	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	扇の井	井戸	○		11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
浄智寺	甘露の井	井戸	○	鎌倉十井	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
海蔵寺	十六の井	井戸	○	鎌倉十井	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	銭洗弁財天宇賀福神社 (銭洗水)	名水	○	鎌倉五名水	9			1	1		1	1	1	1	1		1	1	
	六角井	井戸	○	鎌倉十井	9			1	1	1	1	1			1	1	1	1	
	梶原太刀洗水(大刀洗川)	名水	○	鎌倉五名水	7			1	1	1	1	1	1	1	1			1	
	底脱げの井	井戸	○	鎌倉十井	7			1	1	1	1	1	1	1	1			1	
	棟立ノ井	井戸	△	復元	6			1	1	1	1			1				1	
	日蓮乞水	井戸	○		6			1	1	1	1		1	1				1	
	蛇形の井	井戸	○		5			1	1	1	1	1			1				
	泉の井	井戸	○	鎌倉十井	5			1	1	1	1	1						1	
	銚子の井	井戸	○	鎌倉十井	4			1	1			1			1			1	
	部屋ノ井(鎌倉七水)	井戸	×		4			1	1		1	1			1				
建長寺	金竜水	名水	×	鎌倉五名水	4				1	1								1	
	弘法硯水	池	×		4			1	1				1					1	
明月院	明月院	井戸	○		3			1	1	1								1	
建長寺	不老水	名水	不明	鎌倉五名水	3			1	1									1	
建長寺	大覚池(亀池)	池	○		2				1									1	
	梶原井戸	井戸	○		2													1	
建長寺	心字池(さん碧池)	池	○		1				1										
常楽寺	無熱池	池	○		1				1										
円覚寺	妙香池	池	○		1				1										
円覚寺	白鷺池	池	○		1				1										
	天人池	池	○		1													1	
	一遍上人の島井戸	井戸	○		1													1	
	六方の井	井戸	○		1													1	
鶴岡八幡宮	源氏池	池	△	改変	1													1	
円覚寺	宿龍池	池	×		1				1									1	
	御坊井	井戸	×		1													1	
	仙人澤	池	不明		1				1										
	衣張の井	山	不明		1				1										
掲載総数:33件					現存:23件	合計(件)	4	4	11	22	15	13	11	7	10	11	2	18	19

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
 【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

表-4-13. 自然：石・岩

所属 寺社	名称	細分類	現存	特記事項	掲載 絵 図 数 ( 図 )	←古 新→													
						図番号													
						第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図	
鶴岡八幡宮	鶴亀石	石	△	移設	6			1	1		1	1		1	1				
	十王岩	岩	○		5				1		1			1				1	
鶴岡八幡宮	姫石・政子石	石	△	移設	4			1				1		1				1	
	望夫石	石	×		4						1			1				1	
	獅子巖	岩	不明		2				1										
浄智寺	盤陀石	石	○		1				1										
円覚寺	虎頭岩	岩	○		1				1										
	飛石	石	○		1								1						
	魚板石	石	○		1													1	
	曇石	石	○		1													1	
鶴岡八幡宮	影向石(ようごういし)	石	×		1				1									1	
	口口石	石	×		1													1	
	短冊石	石	不明		1				1										
	高石	石	不明		1				1										
瑞泉寺	大亀岩	岩	不明		1				1										
掲載総数:15件					現存:6件	合計(件)	0	0	2	9	0	3	2	1	4	1	0	6	3

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
 【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失



表-4-15. 交通：道

名称	細分類	現存	特記事項	掲載 (図 絵 関 数)	←古 新→												
					図番号												
					第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図
馬場小路	道	○		7	1	1	1	1			1	1	1	1			
長谷小路	道	○		7			1	1			1	1	1		1		
若宮小路	道	○		7	1		1			1	1	1	1			1	
金沢街道	道	○		5						1	1	1	1	1	1	1	
今小路	道	○		5			1	1			1	1				1	
段葛	道	○		5			1	1			1	1			1	1	
今小路	道	○		5			1	1			1	1				1	
段葛	道	○		5			1	1			1	1				1	
戸塚道	道	△	一部改変	5			1	1			1	1	1	1	1		
三浦道(名越道)	道	△	一部改変	5				1			1	1	1	1			
岩屋小路	道	○		3				1				1			1		
犬駆坂(妙真坂)	道	○		3				1				1					1
藤沢道(辻堂古道)	道	△		3				1				1			1		
小坪道	道	△	一部改変	3							1	1			1		
琵琶小路	道	○		2				1									1
藤沢道(県道32号)	道	○		2								1	1				
横浜道	道	○		2								1	1				
峠(現横浜市金沢区朝比奈町)	道	○		2											1	1	
小町小路	道	○		2											1	1	
今泉道	道	○		1				1									
綱広小路	道	○		1				1									
坂の下道	道	○		1					1								
新町道(保土ヶ谷道)	道	○		1							1						
藤沢道(片瀬旧道)	道	○		1										1			
三浦郡道	道	○		1										1			
鎌倉街道(化粧坂ルート)	道	○		1												1	
大都小路	道	○		1											1	1	
大町大路	道	○		1											1	1	
神明小路	道	○		1											1	1	
若宮大路	道	○		1											1	1	
横小路	道	○		1													1
向小路	道	○		1													1
稲荷小路	道	○		1													1
御坊坂	道	○		1													1
宇佐小路	道	○		1													1
光則寺通	道	○		1													1
砂子坂	道	○		1													1
御成小路	道	○		1													1
水道道	道	○		1													1
海岸通り	道	○		1													1
玉縄道	道	△	一部改変	1				1									
淵崎道	道	△	一部改変	1				1									
千広小路	道	不明		1											1		
掲載総数:43件	現存:36件		合計(件)		2	1	7	16	1	1	7	6	12	11	8	13	17

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
 【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

表-4-16. 交通：切通し

名称	細分類	現存	特記事項	掲載 (図 絵 関 数)	←古 新→												
					図番号												
					第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図
化粧坂	切通し	○	鎌倉七口	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1
朝夷奈切通し	切通し	○	鎌倉七口	11	1	1	1	1	1	1	1		1	1		1	1
巨福呂坂切通し(旧道)	切通し	△	鎌倉七口/一部改変	11	1	1	1	1	1	1	1		1	1		1	1
亀ヶ谷坂切通し	切通し	○	鎌倉七口	9			1	1	1	1	1	1	1	1			1
大仏坂切通し	切通し	○	鎌倉七口	8			1	1	1	1	1	1				1	1
名越切通し	切通し	○	鎌倉七口	8			1	1	1	1	1		1	1			1
極楽寺切通し	切通し	○	鎌倉七口	5				1	1				1			1	1
釈迦堂切通し	切通し	○		2				1					1				
七曲(化粧坂)	切通し	○		1													1
巨福呂坂切通し(現)	切通し	△		1													1
帰雲洞	隧道	×		1				1									
小坪切通し	切通し	×		1				1									
切通しの後(海蔵寺裏山、大堀切、蛇居ヶ谷切通跡)	切通し	×		1				1									
切抜①	切通し	不明		1				1									
切抜②	切通し	不明		1				1									
切抜③	切通し	不明		1				1									
切抜④	切通し	不明		1				1									
掲載総数:17件	現存:8件		合計(件)		3	3	6	15	7	6	6	3	7	5	0	5	9

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
 【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失



鶴岡八幡宮境内にある「御橋・赤橋」については、文字情報としての掲載数は5図であるが、「絵」としては全13図に記されていることより、観光資源というよりは鶴岡八幡宮のランドマークの1つとして扱われていたとみられる。

表-2より現存状況に着目すると、「道」は43件中36件（現存率83.7%）と高い現存率であり、三方を屋山、南方を海という自然の要塞に囲まれた鎌倉の立地より、鎌倉内外を行き来する経路は中世の時点で概ね定まっていたとみられ、その重要性が現代まで継続された結果であるとみられる。

「道」と連続して存在する「切通し」は17件中8件（現存率47.1%）と半数以下の現存に留まっているが、消失・不明に該当する切通しの多くは、第四図のみに掲載されていることより、主要な切通しは概ね近世から現代に至るまで継承されたといえる。

なお、小坪切通しは近世の時点で廃道となった。同じく「道」に連続する「橋」は、34件中27件（現

存率79.4%）と約8割が現存している。これは、架橋に大きく関わる「自然」の「川・滝」の現存率とも類似していることより、河川を大きく改変しなかったことに拠るといえるであろう。

以上より、交通に係わる要素は一部近代化に伴う改変等がみられるものの、概ね継承されているといえる。特に、「切通し」「橋」に共通に見られた傾向として、七口や十橋など定数化されたものは全時期において掲載されやすい、つまり、継承されやすく、定数化によりこれらの交通要素が「観光資源」の側面を有したことで、価値を損なわずに継承されたと考えられる。

(10) 近代要素：交通、公共、医療、宿泊、その他

表-4-18に絵図ごとの「交通」の掲載状況を、表-4-19に「公共」、表-4-20に「医療」、表-4-21に「宿泊等」、表-4-22に「その他」、の掲載状況を示す。

表-4-17. 交通：橋

所属 寺社	名称	細分類	現存	特記事項	掲載 絵図 数	←古 新→ 図番号												
						第一 図	第二 図	第三 図	第四 図	第五 図	第六 図	第七 図	第八 図	第九 図	第十 図	第十一 図	第十二 図	第十三 図
	筋違橋	鎌倉十橋	×		11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	裁許橋	鎌倉十橋	○		9			1	1	1	1	1	1	1			1	1
	琵琶橋	鎌倉十橋	○		8			1	1	1	1	1	1	1	1			1
	勝ノ橋	鎌倉十橋	×		8			1	1	1	1	1		1	1			1
	歌の橋	鎌倉十橋	○		7			1	1	1		1		1	1			1
	針磨橋	鎌倉十橋	○		6			1	1	1	1			1				1
	乱橋	鎌倉十橋	×		6			1	1	1		1						1
鶴岡八幡宮	御橋・赤橋		○		5			1	1			1		1				1
	延命寺橋(墨壳橋)		○		5					1			1	1				1
	夷堂橋	鎌倉十橋	○		5				1	1				1				1
	十王堂橋	鎌倉十橋	○		3				1	1								1
	逆川橋	鎌倉十橋	○		3				1									1
	泉水橋		○		2									1				1
	滑川橋(海岸橋)		○		2									1				1
	大黒橋(三枚橋)		×		2									1				1
	維新橋		○		1				1									1
	玉潤橋		○		1				1									1
	中大口はし		○		1						1							1
	魚町橋		○		1									1				1
	泉橋		○		1													1
	御坊橋		○		1													1
	明石橋		○		1													1
	通玄橋		○		1													1
	水堰橋		○		1													1
	金橋		○		1													1
	大御堂橋		○		1													1
	東勝寺橋		○		1													1
	一本橋		○		1													1
円覚寺	降魔橋		○		1													1
	上河原橋		○		1													1
	音無橋		○		1													1
	圓魔橋		△	移設	1													1
円覚寺	不明(橋)		不明		1				1									1
建長寺	普門橋		不明		1				1									1
掲載総数:34件		現存:27件		合計(件)		1	1	7	15	10	6	7	2	12	4	0	8	28

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失



表-4-20. 近代要素：医療

名称	細分類	現存	特記事項	掲載絵図数	←古 新→ 図番号												
					第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図
					鎌倉病院	医療	○		1								
鎌倉養生院	医療	△		1												1	
額田保養院(現額田記念病院)	医療	△		1												1	
掲載総数:3件		現存:1件		合計(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

表-4-21. 近代要素：宿泊等

名称	細分類	現存	特記事項	掲載絵図数	←古 新→ 図番号												
					第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図
					岩本楼	宿泊	○		2							1	
海浜ホテル(海浜院)	宿泊	×		2											1	1	
つるや	食事	○		1					1								
柳都亭	食事	○		1													
恵比寿屋	宿泊	○		1											1		
香風園	宿泊	×		1											1		
旅館三橋与八	宿泊	×		1											1		
旅舎稲瀬屋	宿泊	×		1											1		
旅館砂井亭	宿泊	×		1											1		
對鶴館角正	宿泊	×		1											1		
旅舎丸屋	宿泊	×		1											1		
三橋旅館雪ノ下出張所	宿泊	×		1											1		
旅館金亀楼	宿泊	×		1											1		
旅舎堺屋	宿泊	×		1											1		
旅舎江戸屋	宿泊	×		1											1		
旅館さめき屋	宿泊	×		1											1		
口蘭屋	宿泊	不明		1											1		
掲載総数:17件		現存:4件		合計(件)	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	15	1

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

表-4-22. 近代要素：その他

所属 寺社	名称	細分類	現存	特記事項	掲載 (図 絵 図 数)	←古 新→ 図番号												
						第一図	第二図	第三図	第四図	第五図	第六図	第七図	第八図	第九図	第十図	第十一図	第十二図	第十三図
							カナメ山温泉	温泉	×		2							
鶴岡八幡宮	国宝館	博物館	○		1												1	
	理智光寺義僧の碑	碑	○		1												1	
鎌倉宮	コッホ博士記念碑	碑	○		1												1	
	忠魂碑	碑	○		1												1	
	鎌倉メソヂスト教会(日本基督教団鎌倉教会)	宗教	○		1												1	
	教育勅語碑	碑	△	震災後再建	1												1	
	鎌倉中央食品市場	市場	△	移動	1												1	
	一陽堂三橋	文化	×		1											1		
	博古堂後藤	文化	×		1											1		
	三橋工場	文化	×		1											1		
	御用邸跡	旧跡	×		1												1	
	山階宮別邸	別荘	×		1												1	
地震観測所																		
鎌倉劇場	文化	×		1												1		
鎌倉銀行	金融	×		1												1		
湘南倶楽部	文化	×		1												1		
掲載総数:16件		現存:5件		合計(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13	

※掛網数字は掲載がみられたものを指す  
【現存の凡例】○:現存、△:名称や存続状況に変化が生じたもの、×:消失

対し、「公共」は21件中10件(同47.6%)、「医療」は3件中1件(同33.3%)、「宿泊など」は17件中4件(同23.5%)、「その他」は16件中5件(同31.3%)と、いずれも低い割合であった。この理由として、第1に大正12(1923)年の関東大震災による被災が考えられる。鎌倉は当時の最大震度6を記録したことに加え、津波による甚大な被害を受けている。

「鎌倉震災誌」によると、「その他」の「鎌倉劇場」や「御用邸」「山階宮別邸」などは建物に甚大な被害を受け、その後撤退したとされている。さらに、近代医療の発達に伴い結核の治療法が確立されたことで、「医療」分野における療養所の存在意義が問われた結果、サナトリウムとは切り離された病院として継続する、或いは閉鎖するという選択を迫られた。

また、「宿泊等」については、鉄道の発達に伴う東京までの大幅な時間短縮により宿泊需要が失われたことで、鎌倉が現代の姿である「日帰り観光地」へと転換したといえる。

以上より、近代要素の多くは、関東大震災の影響や各分野の技術発達に伴い、各々の存続形態を変容、あるいは消失せざるを得ない状況となり、交通以外の継承状況が低くなったと考えられる。

## 6. 『鎌倉絵図』にみる近世以降の観光資源の価値継承

『鎌倉絵図』への掲載状況より、「寺社」は近世から近代に至るまで一貫して掲載数が多いことより、近世以降、観光価値が高いまま継承されている観光資源であるといえる。鶴岡八幡宮をはじめとする過半の絵図に掲載されたものの多くは現存していることより、今後も観光価値が継続する、いわば恒久的な観光資源であるといえ、今後の鎌倉観光においても重要な位置を占めることが予測される。一方で、「寺社付属」は、掲載が近世に集中しており、うち掲載が3図以下のものは全体の約8割に相当する141件であり、これらは、特定の絵図への掲載に限定されていた。これは、寺社付属の多くが近世の時点で観光価値が高くなかったこと、近世において価値が高かったものについても、近代以降にその価値を低くするに至ったことを示すといえる。この要因には、明治初期の「神仏分離令」に伴い、鶴岡八幡宮境内の仏教施設の撤廃にみられる仏教界への弾圧

による物理的損失や、旅行者向けの地図の形態が観光客や地元への分かりやすさを追求した「絵図」から、地理情報の正確さを求めた「地形図」へと変化したことで、「末寺」や「塔頭」以下、大寺社の附属施設そのものを掲載する意義が失われたためといえるだろう。

「寺社付属」を除く多くの要素は、近世から近代にかけて掲載件数が増加する傾向がみられるが、これらは「近世にある程度掲載されていたが近代にさらに増加したもの」と「近世にはほとんど掲載されない、あるいは少ないが近代に飛躍的に増加したもの」に大別される。

「近世にある程度掲載されていたが近代にさらに増加したもの」の多くは近世から継承されている観光資源であり、近世の時点で既に観光価値が高かったところに、近代の地形図の導入により、地理情報として網羅的に地域資源が追加される形で増加したものである。

「塚・墓・石塔」と「やぐら・窟等」は、近世には、平家物語や太平記などにみられる「鎌倉幕府の設立や存亡に係わる著名人」にまつわるものが掲載される傾向がみられ、いずれも8割を超える現存率であることより、近世より引き継いだ観光価値が今後も継続するとみられる。

一方、「屋敷跡」は全て中世の時点で消失、「名所・旧跡」も近世の時点で多くが消失、現存率も2割程度と少ないが、源頼朝や北条家といった幕府と強く関わりがあるものを中心に多くの絵図に掲載されていたことより、存在せずとも観光価値が高い資源であったことが窺える。これらも先に述べた「鎌倉幕府」にまつわるストーリー性の効果により、観光価値を今後も継承していくとみられる。

鎌倉の地形・地名の代名詞ともいえる「谷」は、過半の絵図に掲載されたものは笹目ヶ谷や葛西ヶ谷など59件中8件に留まり、約3分の1にあたる17件は第十二図、第十三図のみに掲載されていた。これは、絵図に掲載する場合は寺社が中心のため地名記入の必要が生じなかったことと、前述の通り近代の地形図導入が影響しているといえる。しかしながら、町丁名などとして約84%と高い現存率があることより、地域情報として今後も継承されるであろう。

「地形・地名」は、観光資源に係わる「雪の下」や「大町」「小町」、史跡や幕府の云われと関係があ

る「霊山ヶ崎」や「稲村ヶ崎」は、全時期を通じて掲載される傾向がみられたが、集落の名称については、第十二、第十三図に特徴的に多くみられた。これは、測量技術の発達などに伴い、旅行者に提供する情報を精査した「絵図」から、網羅的に地理情報を掲載する「地形図」に変化する過程で掲載する地理情報が変化したことによるといえよう。同様の傾向は「道」「橋」でもみられ、特に第三図以降で記載件数が多くなる傾向を捉えた。

なお、「地蔵」「石・岩」はその掲載数の少なさより、近世の時点で観光価値は低かったとみられ、「地蔵」は近代に情報を追加したこと、明治期の神仏分離令により寺社から独立したこと、さらには約83%と高い現存率であることより、近代以降、若干ではあるが観光価値が高くなったとみられる。一方、「石・岩」は、第四、第十二図において多く掲載されたものの、第十三図では3件に留まった。これは、「石・岩」それぞれに云われがあったとしても、山などの地形や鶴岡八幡宮境内の一部としてみなされるため、地形図上に掲載する地理情報として必要視されなかったことによると考えられる。

「近世にはほとんど掲載されない、あるいは少ないが近代に飛躍的に増加したもの」として、近代要素と自然要素の「山」が挙げられる。

近代要素は名称の通り、近代化に伴い鎌倉に導入されたためであるといえるが、表-2より、交通以外の現存率は低い。近代に「保養地・別荘地文化」を形成した「医療」「宿泊等」の現存率も3割程度となっており、これらの観光価値は現代まで継承されなかったことがわかる。

「山」のうち、近世から近代まで一貫して掲載されたのは衣張山や屏風山、源氏山などに限定され、61件中38件と全体のおよそ6割が第十二図または第十三図のみ、つまり地形図に掲載された。これは、近世において「山」自体に観光価値がなかったこと、近代になり地形図の導入により、地理情報が網羅されたことによること、が考えられる。山については、現在、一部ハイキングコースが開設されていることより、混雑の少ない新たな観光資源として期待できるといえ、今後の価値向上が見込まれるといえよう。

「近世から近代にかけ掲載数が減少しているもの」は「植物」のみであった。これは、生き物である植物自体が近代まで物理的に継承されなかったことに

加え、地形図上で個体としての樹木を継承する必要が生じなかったためと考えられる。つまり、云われがある樹木であっても地図情報としては「樹林」の一部に埋没し、観光価値を継承し得なかったことが窺える。

「近世から近代にかけて、掲載傾向に大きな変化が見られなかったもの」には、「川・滝」「井戸・名水・池」「切通し」が挙げられる。

「川・滝」は、近世・近代を通じて「稲瀬川」と「滑川」が主に掲載され、滑川は区間ごとに別名がつけられているが、近世ではこの別名が比較的多くの名称が掲載される傾向が見られた。しかしながら、近代になると地図情報としての正確性が求められたことより、「地域名称」としての別名の掲載は減少したとみられる。

「井戸・名水・池」は、近世より鎌倉十井など云われのある井戸を中心に掲載されやすい傾向にあり、近代の地形図においても既出の資源を掲載したにとどまっていた。これは、鎌倉において水資源が貴重であったことより、その価値は観光価値に留まらず、地域資源としても大切に扱われた結果として継承されたと考えられる。現在では、これらの多くは生活利用されていないが、わが国では水を祀る文化があることから、今後もその価値は継承されるであろう。

「切通し」は、鎌倉七口が一貫して掲載されやすい傾向を捉えた。これは、鎌倉七口の多くが現代においても鎌倉内外を移動する上で主要な交通手段となることに加え、鎌倉時代に纏わる云われなどを有していることより、切通し自体が持つ観光資源としての価値が高いといえる。実際、2013年に鎌倉が世界文化遺産不登録となるまでの間、「朝夷奈切通し」「名越切通し」「亀ヶ谷坂」「化粧坂」「大仏切通し」は、構成資産に含まれていたことから、これらの観光価値は現代においても有効であり、かつ今後も継承されるであろう。

## 7. まとめ

本研究では『鎌倉絵図』に着目し、これらに記載された観光資源の掲載状況の変容を調査することで、観光価値継承の実態を把握することを目的とした。

その結果、「寺社」や「切通し」は近世以降、一貫して掲載数が多く、特に掲載数の多い「鶴岡八幡宮」や「建長寺」、「朝夷奈切通し」などは、2013年に「不

登録」となった世界文化遺産申請時の構成遺産であり、近世以降継続して観光価値の高い資源であるといえる。これらは今後も鎌倉観光を牽引する重要資源であるといえ、各施設や自治体により健全な状態で保全されるであろう。しかしながら、「寺社付属」をはじめとする多くの資源は、近代以降の観光ではその価値が十分に検証されておらず、檀家や氏子の減少に伴う維持・管理の困難や今後の災害時の復旧・復興が滞る可能性などが想定される。

本研究で得られた成果より、このような問題が起こった背景には、神仏分離令による直接的な観光資源の排除に加え、近代以降の都市整備や地形図上で扱う地理情報のあり方にあることが明らかとなった。地形図では、現存の地理情報の性格さと網羅性は十分に担保しているものの、800年の都市「鎌倉」の履歴までを掲載することはできない。

廃されて数百年経過した近世において「屋敷跡」が観光資源であり続け、この云われが現代に継承されたように、今後は現存する・しないに関わらず、観光都市・鎌倉の礎を築いた資源の観光価値を継承し、かつ魅力を伝え得る観光マップやそれを補填するツールのあり方が求められるであろう。

**謝辞：**本稿は公益財団法人国土地理協会の学術研究助成金の支援を受け遂行した。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 鎌倉市：観光客数及び海水浴客数：  
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/0803kankoukyakusuu.html>, 日本語, 2016年11月5日閲覧
- 2) 鎌倉市(2016)：第3期鎌倉市観光基本計画, p.16-19
- 3) 押田佳子(2013)：鎌倉における伝統的な『古都観光』の継承に関する研究, 郷土神奈川, Vol.51, pp.1-27
- 4) 澤寿郎(1976)：「復元鎌倉古絵図略解」, 東京美術
- 5) 康寧・今西純一・深町 加津枝 (2013)：名所図会からみた京都巨椋池地域の名所空間分布及び水辺空間構造に関する研究, ランドスケープ研究 76 (5), pp.559-564
- 6) 永井浩貴・横内憲久・岡田智秀・押田佳子(2012)：都市における寺社空間の保全に関する研究—切絵図・古地図・現代地図からみる寺社面積の変遷について, 建築学会 2012 年度大会(東海)学術講演梗概集(都市計画), pp.361-362
- 7) 清水美砂・上甫木昭春 (2006)：『摂津名所図会』と『和泉名所図会』に描かれた神社の緑の存在形態とその変化に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.41-3, pp.367-372
- 8) 押田佳子(2012)：徳川光圀『鎌倉日記』にみる近世鎌倉の観光および景観資源の発掘に関する研究, ランドスケープ研究 75(5), pp.373-376
- 9) 押田佳子・横内憲久・岡田智秀・瀬畑尚紘(2011)：紀行文より捉えた近世鎌倉における観光経路および滞在拠点の成立過程に関する研究, ランドスケープ研究 74(5), pp.431-436
- 10) 押田佳子・横内憲久・岡田智秀(2010)：十返舎一九「金草鞋」を通じてみた近世鎌倉観光における通過地点の景観構成とその観賞形態に関する研究, ランドスケープ研究 73(5), pp. 519-522
- 11) 押田佳子(2014)：近世鎌倉の風景描写と旅行者認識より捉えた切通しの観光的意義に関する研究, 環境情報科学論文集 28, pp.355-360
- 12) 押田佳子：近代鎌倉における古都観光の継承状況に関する研究, ランドスケープ研究 76(5), pp.593-596
- 13) 押田佳子・天野光一・飯塚陽生(2011)：近世鎌倉絵図の描写に見る観光対象および旅行者の空間認識の変容に関する研究, 土木学会第 66 回年次学術講演梗概集, IV -270, pp.539-540
- 14) 押田佳子・横内憲久・岡田智秀・野村誠志(2015)：鎌倉における近世・近代の通りとまちなみ描写に関する研究—鎌倉絵図と紀行文を対象として, 建築学会 2015 年度大会(関東)学術講演梗概集(都市計画), pp.483-484